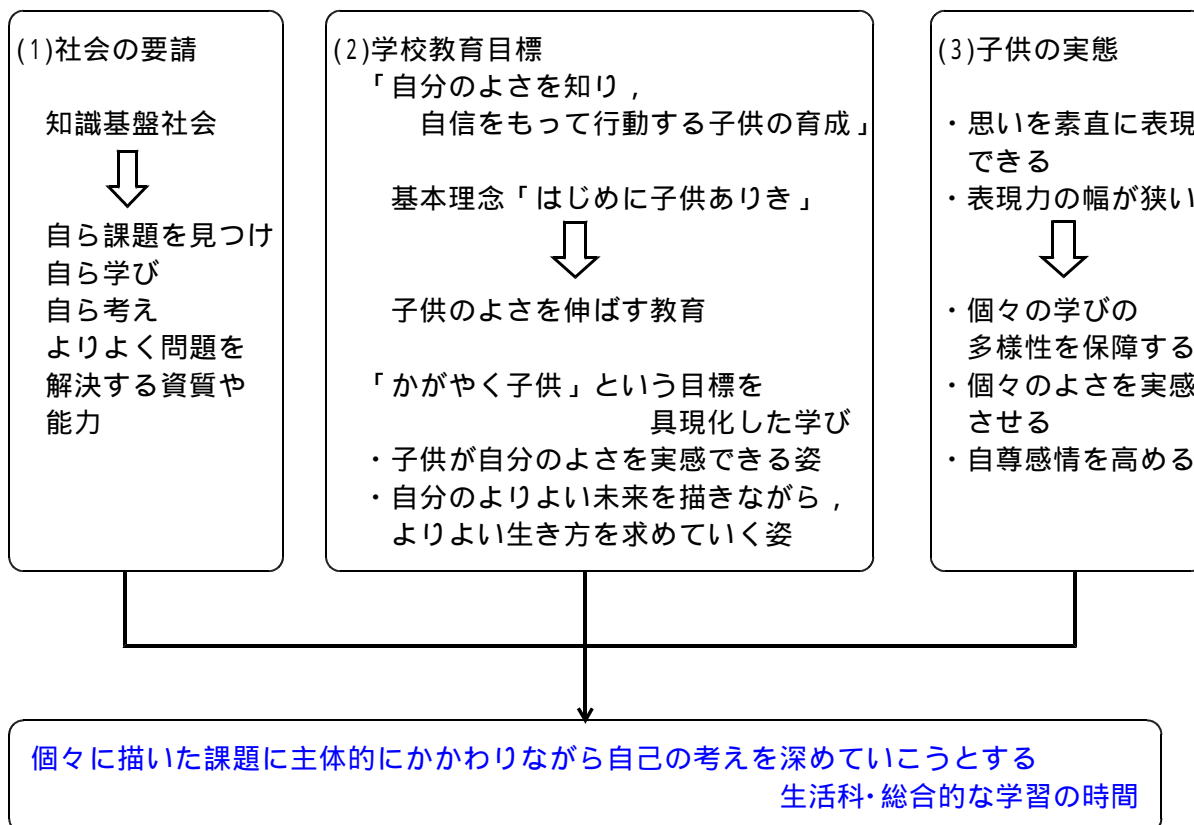


1 研究主題

「自分のよさを知り，よりよい生き方を大切にする子供の姿を求めて」
～体験を通して，学び方を学ばせる生活科・総合的な学習の時間の授業の創造～

2 研究主題設定の理由



3 研究主題・副主題について

「自分のよさを知る」とは

- ・今の自分が周囲に表しているよさを知ること
- ・潜在的にもっているよさを知ること

「よりよい生き方を大切にする」とは

- ・自分のよさから自分なりの憧れを抱き，その憧れの実現に向けて自分のよさを発揮しながら取り組み続けようとする

「体験を通して学ぶ」とは

- ・学習に対する疑問や見通しをもたせること
- ・気付きや課題解決のためのかかわりをもつこと
- ・かかわってきた学習対象へのかかわり方を生かすこと

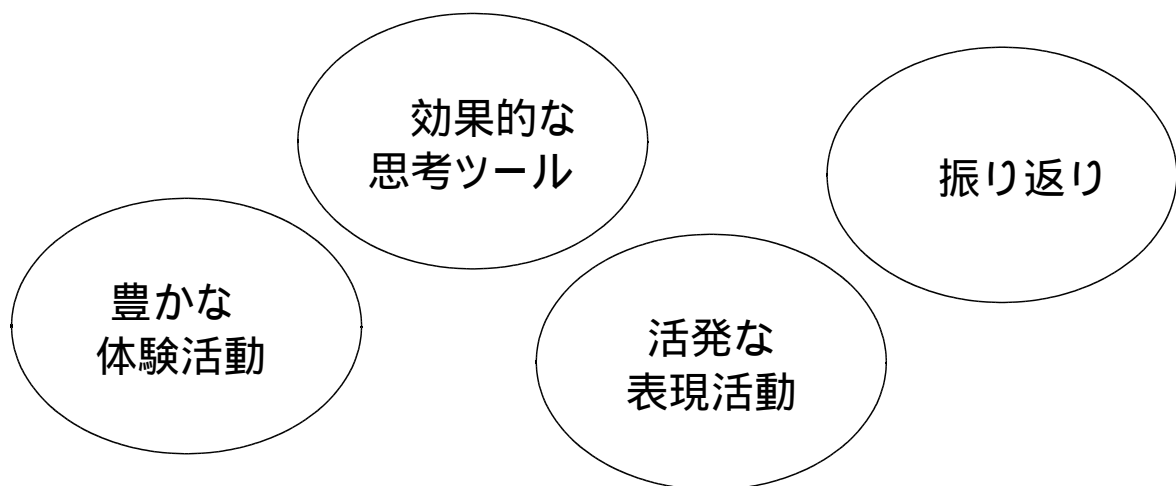
「学び方を学ばせる」とは

体験を通して見付けたことや分かったことを整理し、その意味することを周囲の人との交流を通して考えさせること

生活科 「比べる」
「分類する」
「関連付けする」

総合的な学習の時間 「ふれる」
「あつめる」
「ねりあげる」
「まとめ広げる」

4 研究の視点



5 研究仮説について

< 研究仮説 >

学習過程の中に、適切な思考ツールを活用する学習場面を位置付けることにより、子供は自分の知識を友達に伝え合い、その知識を再構成して自分の考えを深めることができるであろう。

6 総合的な学習の時間 全体計画

子供の实態

- ・明るく素直である。
- ・少人数のほぼ同一の集団で生活しており、お互いのことをよく知り合っている。
- ・何でも一生懸命、頑張ることができる。

保護者の願い

- ・着実な学力の定着
- ・基本的な学習習慣の確立

学校教育目標

自分のよさを知り、自信をもって行動する子どもの育成
かがやく子ども・笑顔あふれる学校

- 1 かがやく子ども、笑顔いっぱいの学校
- 2 全ての子どもを全ての教職員で育てる
- 3 豊かな心の育成と基礎学力の徹底

めざす児童像

み みんななかよしな子
は 話すこと・聴くことを大切にする子
ら ラストまでがんばる子

地域の实態

- ・子供たちを温かく見守っている。
- ・子供たちに挨拶をしてくれる。
- ・ゴミ拾いなど自主的に活動する方が多い。

地域の願い

- ・のびのびと安全に学習・生活してほしい。
- ・挨拶をしてほしい。

「総合的な学習の時間」の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

育てようとする資質・能力及び態度		学習内容		
	3・4年	5・6年	学習対象	学習事項
学習内容	・対象との体験のなかかわりを通して課題に気付く	・対象と積極的になかかわる中で課題を設定する	国際 長崎と諸外国との交流や文化	・長崎の伝統や文化とそのよさを知り発信する取組 ・異なる文化と交流する活動や取組
	・解決の見通しをもち計画を立てる	・解決の方法や手順を考えて計画を立てる	福祉 高齢者とその暮らしを支える仕組みや人々	・地域における福祉の現状と問題 ・福祉問題の解決やよりよい福祉を創造するための取組
	・相手や目的に応じて表現する	・相手や目的に応じて効果的に表現する	平和 戦争や被爆の実態を知り、平和をはぐくむ心を育てる	・原爆資料館の見学や被爆体験講話 ・被爆都市としての重みの継承と平和への取組
自分自身	・学んだことを生活の中に生かす	・学んだことを生活の中で積極的に生かして追究する	キャリア 将来への展望	・自分自身のよさへの気付きと将来展望
	・自分の行為について意思決定する	・自らの生活の在り方を見直しよりよい在り方を考えて実践する	町づくり 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織	・地域の人々のつながり、支え合って暮らすよさ ・町づくりや地域活性化に取り組んでいる人々の思いやその組織
	・目標を設定して、課題の解決に向けて行動する	・自己の成長を振り返り、これからの自分を見つめ、自己を高めようとする	防災 防災のための安全な町づくりとその取組	・地域や学校で防災に取り組むよさと安全な町づくり、学校づくり ・災害の恐ろしさや防災意識の大切さ
他者や社会	・異なる意見や他者の考えがあることを認める	・他者と協力して課題を解決する		
	・自分と地域とのつながりに気付き、地域と進んでなかかわる	・自分と地域のかかわりを考えながら、地域の活動に参加する		

< 27年度の主な学習 >

学年	単元	学習内容
3	町づくり	三原の自慢を伝えよう
	防災	三原の安全を考えよう
4	福祉	やさしさの輪を広げよう
	キャリア	2分の1成人式をしよう
5	平和	平和について調べよう
	幼保小連携	幼稚園児との交流
6	国際	長崎 再発見
	(地域発信)	長崎のよさを知り、それを発信する

指導方法

- ・子供の課題意識を繋げ新たな課題を生み出す指導(思考ツール)
- ・視点を明確にした見取りによる個に応じた支援の重視
- ・児童が諸感覚を使って試行錯誤できる体験活動の選定
- ・協同する活動が必然的に生まれる学習活動の展開
- ・言語活動を適切に位置付け、自覚化を図る学びの指導

<学習の評価>

【学習状況の評価】【指導計画の評価】【学習指導の評価】の方針や手立て

- ・育てたい資質や能力・態度を把握するための評価規準の見直し
- ・指導と評価の一体化の重視
- ・学期末、学年末における指導計画の評価の実施
- ・授業分析による学習指導の評価を重視(効果的な思考ツール選択)

1 思考ツールを位置付けた指導の実際

(1) 生活科 2年 「はっけん くふう おもちゃ作り」 (8/12)

<本時の目標> ゴム車で楽しく遊ぶための遊び方を友達と伝え合ったり、仲良く遊んだりしながら考えようとしている。

<思考の可視化について> 友達のグループの良い点や改善点についてのアドバイスなどを書いて渡す。受け取った付箋から遊び方の改善の手立てや自分自身の振り返りの手立てにする。

過程	学習活動	指導上の留意点		
		評価内容 (評価方法)	思考の可視化	
導入 3分	1 前時の活動を振り返る。 ・ゴム車を使った遊びを考えたよ。 ・ゴム車の遊び場マップを作ったよ。	前時の学習を振り返り、遊び場マップを確認しながら今日はゴム車の遊び場を作って遊ぶことを確認する。		
	2 本時のめあてを確認する。	今日やりたいことを確認しながら本時のめあてを設定する。		
展開 35分	(めあて) 遊び場やルールを工夫してみんなが楽しめる遊び方を考えよう			
	3 遊び方の説明が書かれた付箋を読み、友達のグループの遊び場で遊ぶ。遊び方を読んでもわからない場合は、説明係に聞く。 場の設定例 たおす 登る 飛び越える 真っ直ぐ走る	おもちゃが壊れることがあるので、修理場所を伝えておく。修理場所では、安全面に気をつけて活動させる。 ゴムの勢いを生かしているか、友達と教え合いながら活動しているか等を見取りながら支援していく。 付箋に書いた遊び方を見て、遊ばせる。 遊び場が崩れたとき遊び場を直すため、また、遊び方がわからない児童がいる場合を考えて、一人説明役を置く。説明役は、班で順番に交代する。		
	・友達のグループで遊び、遊び方について付箋に意見を書く。	友達のグループの遊び場の良かった点は、青の付箋に、アドバイスは赤の付箋に書くようにする。		
	4 自分たちのグループに戻り、書かれた付箋を確認し遊び方を改善する。 ・アドバイスを読み遊び方を改善する。	自分で工夫したり、友達と教え合ったりして、おもちゃ作りや遊びをしていたか。(発言・観察)		
	5 改善した遊び方を発表したり、友達の班の発表を聞いたりする。 ・友達の意見を取り入れて改善した遊び方を発表する。	友達からもらった付箋を読んで遊び方の改善の手立てとする。また、自分たちの考えを可視化させる手立てとする		
まとめ 7分	6 学習の振り返りをする。 ・もらった付箋を見て、遊び方を改善して思ったことや今日の活動の感想などをワークシートに書く。	改善した遊び場を2班ほど発表させる。改善点を出した児童に、再度、遊んだ感想を発表させ、遊びを改善したグループの満足をもたせるようにする。		
	7 次時の学習を知る。	気付いたことや友達のよさ等だけでなく、みんなが楽しく遊べたかをおさえながら、振り返りを行うようにする。		
		活動を振り返り、自分や友達の発表の良さやみんなで遊ぶ楽しさに気付いている。(発言・ワークシート)		

	成果	課題
効果的な思考ツール	<p>友達の作品や友達の班の遊び方のよかったところを青付箋に、「もっとこうしたらいいよ。」というアドバイスを赤付箋に書かせることは、見やすくよかった。</p> <p>付箋に書かせることで、時間が経っても内容を思い出して確認することができた。</p> <p>おもちゃづくりの時は、よりよいおもちゃを作るための手立てとなった。</p>	<p>付箋がメモの役割を果たしている部分が大いなので、今後整理させる活動を取り入れ、思考ツールとして活用していく。コミュニケーションの阻害になっているところもある。</p> 
豊かな体験活動	<p>身近にある物を使って、おもしろいおもちゃを自由に作ることができた。</p> <p>友達との教え合いで、友達のよさや自分のよさに気付くことができた。</p> <p>友達の意見を取り入れることで、比べる・試す・繰り返すの活動ができた。</p>	<p>危険な場面を想定して、掲示物を作成しておく。</p> <p>付箋を読んだでの話し合いの活動があるとよかった。</p> 
活発な表現活動	<p>改善した遊び場を紹介した後、付箋をくれた友達に遊んでもらい、感想を言わせることで、改善のよさを実感できた。</p> <p>1年生を招いておもちゃづくりの発表会を行った。遊び方を演技しながら説明することで相手意識をもって分かりやすく説明することができた。</p>	
振り返り	<p>付箋を書いてくれた児童の名前を入れた振り返りができていて、自己有用感の育成につながる書き方であった。</p> <p>1年生から「作り方を知りたい。」という感想をもらい、教えたいという意欲につながった。</p>	
その他	<p>繰り返しおもちゃを作ったり、遊び方を考えたりすることで、磁石・ゴム・風の力や不思議さをより意識して学習することができた。</p>	<p>付箋は、低学年は大きい方がよかった。読む時間に差があったので、読む力を身に付ける。</p> <p>ランキングや整理などの時間を取り、思考ツールを取り入れるとよかった。</p>

(2) 総合的な学習の時間 3年 「三原の自慢をつたえよう」(9/28)

< 本時の目標 >

インタビューして分かった三原の自慢の付箋を棒グラフとして表すことを通して、人気のある自慢やその自慢と考える理由が何であるかが分かる。

< 思考ツールについて >

【棒グラフ】三原の自慢ベスト10を決めるために、同じ内容について書かれた付箋をまとめ、付箋の数に応じて棒グラフに表して、その順位を見やすくする。

【KJ 法的な手法】三原の自慢と考えた理由が分かるために、項目ごとに理由を仲間分けして見出しを付ける。

過程	学習活動	指導上の留意点 評価内容 (評価方法) 思考ツール
導入 5分	1 前時の活動を想起し、本時のめあてを立てる。	前時までに書いた三原の自慢の付箋を使って、本時は三原に住む人たちが思う「三原の町自慢ベスト10」の結果が分かることを伝えて、本時のめあてを設定する。 (めあて) グループで協力して、三原の自慢を決めよう！
展開 35分	2 思考ツール(棒グラフ, KJ 法的な手法)を使って、三原の町自慢ベスト10を決める。 前時で書いた付箋を項目毎に分類していきながら、間違いがないかグループ内で確認し合う。 仲間分けした付箋の数の多い順に模造紙に並べて貼りながら、棒グラフを作り上げる。 三原の自慢ベスト10となった項目毎に選んだ理由をまとめ、整理する。 三原の自慢ベスト10とその理由を個人のワークシートに書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> (思考ツール...棒グラフ) 三原の町自慢ベスト10を決めるために、同じ内容について書かれた付箋をまとめ、付箋の数が多い順に棒グラフとして表す。 </div> 付箋を貼る模造紙上に予め、線や大まかな目盛りを書いておくことで作業に移りやすくする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> (思考ツール... KJ 法的な手法) 自慢とした理由が分かるために、選んだ理由を仲間分けして整理する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友達と協力して付箋を使った棒グラフを作成し、三原の自慢が何であるかについて分かっている。(話し合い中の言動・ワークシートの内容) </div>
まとめ 5分	3 学習を振り返って、自分や友達が頑張ったことや気付いたことを発表する。 次時の活動を知る。	「めあてを達成するために友達と協力したことは何か」「付箋を並べて貼ることで分かったことは何か」などと具体的な視点で問いかけることを通して、本時の学びの振り返りができるようにする。 次時は、各グループで作成した棒グラフと「3年生が決めた三原の自慢ベスト10」と比較した気付きを見つけたり、理由を読んで疑問に思ったりしたことをグループ内で話し合うことを伝える。

	成 果	課 題
効果的な思考ツール	<p>三原のよさを視覚的にはっきりと把握することができるように、棒グラフで整理することにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生で学習した内容であり、付箋を並べていくことにより、3年生の子供にも容易に製作することができる。 ・ KJ法的手法であり、1年生の時から、使用してきたツールである。 <p>子どもたちの学習経験を踏まえることで、抵抗なく学習に取り組むことができた。</p>	<p>インタビューした内容を付箋にそのまま写すのではなく、どのような言葉で書かせるのかということが課題であった。</p> <p>インタビューした子供が理解して聞き取ったか疑問に思う時は、教師が一度、チェックすることが必要だった。付箋に書いただけの情報は、すぐに分析に使えるとは限らないということが分かった。</p>
豊かな体験活動	<p>多くの人にインタビューできたことは、自分の考えを相手に伝えることの大切さと困難さを同時に体験することができ、意義深かった。</p> <p>ただ多くの人だけでなく、異なる年代の人に対してインタビューを行ったことが有効であった。</p>	<p>当初、予定していた地域の方々、とりわけ自治会長や民生委員の方々に直接、インタビューすることができず残念であった。</p> <p>三原に住んでいるからこそ、発せられる地域に対する思いを聞くことができたのではないかと思うからである。</p>
活発な表現活動	<p>棒グラフにする活動は、自分が調べたことを付箋に書くので、大変、意欲的に取り組んだ。普段、書くことに消極的になりがちな子供が、熱心に何枚も付箋を書き続けた。調べたことが自分のこととして受け入れていることが要因である。</p> <p>三原っ子祭りで自分が伝えたいことを練習する場面では、グループ毎に発表する態勢を採用した。自分が発表したい内容を選んで、グループを構成したことが意欲につながった。</p>	<p>調べた付箋の数がとても多かったことである。これまで1グループで20枚程の付箋をKJ法的手法で分析することはあったが、本単元で取り組んだ付箋の数は、少ないところで50枚、多いところで100枚ほどだった。</p> <p>理由の付箋を自慢の付箋と一緒に移動しなければいけないことが、子供たちに混乱を生じさせた。</p>
振り返り	<p>「みんなが知らない自慢こそ、みんなに伝える必要がある」という発言があった。付箋の数が多く自慢に、みんなの注目がいきがちであったが、友達の中から出たことで、自分の知らない三原のよさに目を向ける機会となった。</p> <p>三原っ子発表会で、自分が選んだ自慢をみんなに伝えようとする活動を仕組むことで、三原のよさについて子供自身から「もっと三原のことを知りたい」という気持ちを引き出すことができた。教師から一方的に教え込むのではなく、子供自身が求めていく意識をもたせることができた。</p>	<p>発表会では、棒グラフ化した資料を使用しての発表が主流となり、発表を聞いている人に上手く伝わったのか、疑問に思う。</p> <p>子供たちに、発表する時にどのような表現活動をしたいのか考えさせて取り組ませることが必要だった。</p> <p>絵や劇など、生活科で培った表現方法をつないでいくことが必要であった。</p>

